

<6月24日(土)-6月25日(日)第3戦レポート>

2017 D1 GRAND PRIX SERIES Rd.3 TSUKUBA DRIFT

コースコンディション：ドライ(予選)

PACIFIC RACING TEAM DUNLOP 村山悌啓選手(車両:NAC ガールズ&パンツァーS14 激 IK)

最終成績：単走予選不通過

<本文>

第2戦から約3か月のインターバルにおいて、6月最後の週末にD1GP第3戦が開催された。第3戦の舞台は筑波サーキット。『ガールズ&パンツァー』の舞台である茨城県での開催であり、昨年は村山選手が初優勝を果たしたコースでもある。梅雨の最中の開催だったものの、日曜日の朝以外はドライ路面で競技が行われた。

今回村山選手はエンジンを交換、2.2LのSR20エンジンでのぞむ。公式日程は土曜日から始まり、2ヒートの練習走行のあと単走予選に出走することになる。コースレイアウトは昨年とまったく異なり、最終コーナーから第1ヘアピンまでを正回りで使用する。最終コーナーから1コーナーまでは、ストレートで2回振り返りながらドリフトをつなげることが要求されるが、最終コーナーで角度をつけすぎると1コーナーまでドリフトが届かない。しかし、角度が浅すぎても最終コーナーの点が伸びないので、ドライバーはクルマの特性に合わせてぎりぎりのバランスで角度を選択しないとイケないむずかしいコース設定だ。それでも村山選手は「レイアウトは問題ないです。筑波はいいイメージしかない」と余裕の発言だ。

1回目の練習走行。村山選手はDOSS(機械審査システム)で97点台を出す、まずまずの仕上がりが。大きな仕様変更は必要なく、足まわりのセッティングを多少変更するだけで2回目の練習走行にのぞむことにした。

2回目の練習走行は、98点台もマーク。近年の村山選手はコースを問わず安定して高得点を出すことができ、今回も手ごたえは上々だった。

そして単走予選1本目。最終コーナーを立ち上がってくる村山選手の角度がやや大きすぎるようにも見えた。そのあとのメインストレートでは角度が浅くなってしまふ。そして最後の第1ヘアピンではラインが乱れ、94.95点。予選通過は厳しい得点だ。

単走予選2本目。本来スピードが身上の村山選手だが、またしても最終コーナーでスピードがのせきれていないように見える。その先のドリフトもやや苦しい。そしてS字の振り返りでもキレを欠き、得点は95.73点。思ったようには伸びない。

けっきょく予選通過のボーダーラインは97点近辺となり、村山選手は残念ながら単走予選敗退。日曜日の単走決勝に進出することはできなかった。不調ではないものの、なかなか好成績が残せない今季の村山選手。次の大阪こそ、本領発揮に期待したい。

<村山悌啓選手コメント>

練習走行の際、エンジンが吹けるタイミングが走るたびに違い、それが予選の1本目にも影響してしまいました。フラつきがちな車両を落ち着かせることに集中しすぎてしまい、攻めきれませんでした。

2本目については、1本目の途中、4セク(※S字区間)でデフが壊れていた影響が出てしまい、得点が伸びませんでした。

今回はPACIFIC RACING TEAM DUNLOPを応援するお客様が多数ご来場いただいていた中で、いい走りができず本当に悔しいです。ただし、次戦(Rd.4)の舞洲以降で十分に挽回するチャンスがあると思っています。引き続き応援よろしくお願いします!